

総評 C++テーブル

文責 永田(明学4)



テーブルメンバー

成蹊(3)増田、明治(3)小田原、早稲田(3)森田、慶應(2)水谷(と)、明学(2)和智、
法市(3)小北、早稲田(3)亀島

私からは、「1」議論の流れ、「2」順位と選定理由、「3」コメントの三点から総評とさせていただきます。

なおテーブルでの理解と私の理解に多少のズレがあるかもしれませんが、そのあたりはご容赦願います。

〔 議論の流れ 〕

<Narrow>

和智の快活な **narrowing** によって議論が始まった。ここで亀島から教育論題における議論の内容を絞ろうという提案がなされた。森田の介入により教育の効果と教育環境というものに論点を当てたいというものであることが確認され、**narrow** ではなく **DA** のときに再度話すということで収束した。

その後、**OP** に小田原と小北が立候補し、各々のアイデア理解のために **Q** がいくつか交わされた。二人とも **compari** を見据えた **OP** であったということを追記しておく。投票の結果、小田原が **OP** に選ばれた。

<ASQ>

ASQ では主に小田原の **Core** である人身の自由をもつという観点から、**m/s/b** を量ろうというアイデアを探る **Q** がいくつか飛び、少ないものではあったがストラテを感じる **Q** もあった。特にごちやることなく **Harm** が終了する。

[SOH]

水谷が反論を提示。これは体罰というものには生徒側に問題となる原因があり、**V/H** であるというものであった。これに対し小田原、小北を中心として **Idea** が検証され、小田原の **OP** の立証内容との差異を理由とする **S** により **Sol** で反論を提示するということで終息した。

<NFC>

NFC エリアで増田による反論が提示される。これは体罰を行う教師は理由があり、その教師の意志は政府がコントロールすることはできないというものであった。これに対し小田原、小北、森田がそれぞれ別の方向から介入をする。なかなか話が進まず同じ話が何度も繰り返され、和智の論点の整理する **C** から小田原の処罰が教師に影響を与えるという意見から、教師に対し処罰が影響を与えることが確認されることで終息する。

その後、時間の関係からじゃんけんで反論提示者が決まり。亀島の **narrowing** をもととした **idea** が提示され、その検証途中で議論が終了した。

【 個人順位 】

1 位 明治(3)小田原

OPプレゼンターとして議論を前に進めようとしていた点を評価し1位とした。他者の介入に対して的確なCをし、自分の意見も提示できていたこと、また全体的に介入の錬度が高いと感じた。最後まで気持ちを切らすことなく議論をする姿勢があった。今回の結果で満足のできるものであるかはわからないが、一年前と比べ見違えるほどに成長しており圧倒的プレパ量を感じた。さらなる成長に期待。

2 位 早稲田(3)森田

議論において他者の意見を積極的に引き出せていたので2位とした。介入の質も高く議論を進めようとする姿勢もみえたのもっとできると感じた。1位との差は自分の意見を提示しているか否かであったためテーブルの中での自分の役割次第では違った結果となっていたかもしれない。できることはたくさんあったと思うので、アッセンではテーブルで出し切れるよう頑張してほしい。今後に期待。

3 位 法市(3)小北

議論において意見の引き出しや独自の観点からの推進を促す介入から3位とした。介入における質は上位2名と変わらないと感じたが、介入量という点で差が出てしまった。テーブルに出てきた論点に対し自分の意見を持ち介入していた点は好感を持てたが、その意見がテーブルの中心として話されることはなかったので、その点においては改善の余地があると感じた。新たな君に期待。

また上位三人は議論をマクロにとらえ推進していくことが足りてないと感じました。意識一つで変わると思うので、ぜひ考えてみてください。

4 位 成蹊(3)増田

NFCでの反論の提示とQを評価し4位としました。積極的に自分の意見をテーブルに示すことまた独特のテンポを持っていることは強みであると感じました。今回のテーブルでは多々、他者との理解の不一致から停滞を招く場面があったので、自分の意見をわかりやすく伝える、相手の意見を正確にとらえることでもっと建設的な議論をできるようになると思う。花開け。

5 位 慶應(2)水谷

SOHでの反論の提示を評価した。二年生ながらテーブルに対する理解は高いと感じ

た。また水谷の人の話を聞く姿勢はとても好感を持てるものであった。その姿勢を忘れることなく今後のディスカッション界で活躍してほしいと思った。可能性の獣。

6位 明学(2)和智

QとマクロなCを評価した。今回のテーブルでみなの議論が停滞していた時に、論点を整理していたので、その目の付け所は長所であると思う。2年生で介入することは難しいと思うが一步一步成長して行ってほしい。経験を糧に進め。

7位 早稲田(3)亀島

自分の意見の提示をしていた点の評価した。残念ながら意見が検証されることがなかったためこの順位となった。個人的にはとても面白い論点であると感じたので、自分の論点を話すために他者の発言に介入してほしかった。次に期待。

【 コメント 】

みなさん春セミお疲れさまでした。今回の結果が満足のいくものであったのかそうでないのかは僕にはわかりません。しかし僕は、大学生活の中でこれだけ一つのことに真摯に向き合い生活をしたということは君たちにとっていい経験になると思います。真剣にやったからこそ思える感情があり、得られる気持ちがあります。まずは自分をねぎらってあげてください。

今回のテーブルを見て改めて議論をすることの難しさを見たと思いました。他者との意見を交えそのうえで結論を出すということは難しいことだと思います。しかしそれを目指してほしいし、そのうえで楽しく感じられるようにしてほしいです。

アッセンで君たちの成長した姿を見られることを期待しております。